

## 再審査(2017)の指摘事項に対する活動計画

### 【今後の課題、改善すべき点】

#### 1. 1年以内（2018年度末まで）に改善すること

題目：パートナーシップについて	関連組織：協議会
指摘内容：ジオパーク活動を推進する協議会会員は、ジオパーク活動の取り組むメリットを理解し、実際にジオパーク活動に参画する意思のある団体または個人とすべきであり、協議会規約に基づいた協定書を締結する必要がある。	
活動方針：下仁田自然学校や応援団とは町行政との委託契約、補助金などがあるので、それぞれの役割は明確化されつつある。今後、商工会や観光協会などの組織や協議会員個人についても、他のジオパークと意見交換をしながら、どのような形でパートナーシップを結ぶのがよいか考えていく。	
活動計画：単独市町村での協議会運営を、世界ジオパークのアポイや、関東の銚子ジオパークなどと情報共有をする。	

題目：アクションプランの具体的な数値目標の設定	関連組織：全部会、協議会
指摘内容：ジオパークの運営計画であるアクションプラン(2017年度~2021年度版)において、ジオパークによる地域活性化に向けての総合的な計画が策定されているが、具体的な数値目標や年度毎の達成目標値が設定されておらず、今のままでは実効性にやや問題がある。協議会でのさらなる議論を重ね、具体的な数値目標を設定するとともに「いつ、誰が、何をするのか」までの詳細な計画を策定することが必要である。	
活動方針：アクションプランの数値目標については、2017年12月より各部会で検討し、数値目標を定め、2018年3月のジオパーク下仁田協議会で承認された。今後はこの計画をHPなどで公表するとともに、計画に基づき、持続可能なジオパーク運営を行なっていく。また、年に1度はアクションプランの進行状況をチェックする。	

題目：ジオパークの境界線について	関連組織：産業観光部会
指摘内容：地域住民および来訪者に対してジオパークの範囲を明確に示す必要がある。日本ジオパークの申請書も含め、協議会が発行するリーフレット、マップ、看板等にジオパークの範囲を表示してもらいたい。	
活動計画：富岡製糸場との広域連携の関係もあり、エリア外についても紹介したマップとしているが、表示方法を変えて次回のパンフレット作成時には、境界について明確に分かるように表示するようにする。	

題目：ジオパークの可視性について	関連組織：協議会
指摘内容：看板、チラシなどにジオパークないし協議会の名称を表示し、下仁田ジオパークとして統一した可視性が必要である。また、外国人の受け入れを考えるならば、世界遺産に登録されている「荒船風穴」は当然のことながら、ジオパークの解説看板の外国語対応が必要である。	
活動方針：看板に、連絡先を「ジオパーク下仁田協議会」に統一して入れていきます。また、看板については、現在も盤面のスペースを考慮し、英語表記は最小限とし、QRコードをつけてWEBによる国際対応をしているがWEBページによる案内が不十分なので、それらの充実を図っていきます。	
活動計画：H30年度HPリニューアル	

## 2. 2年以内（2019年度末まで）に解決すること

題目：ストーリー性	関連組織：協議会、全部会
指摘内容：下仁田ジオパークの地質と日本列島の成り立ち、ダイナミックな地球の活動との関わりを取り入れた、わかりやすく面白いストーリーでの解説が必要である。また、植物を中心とする生物などの地域資源も取り入れ、それぞれのサイトにおいても、「大地の成り立ち」「生態系」「人の営み」の関係性がひも解けるような工夫が必要であり、そうした内容を語れるガイドの養成講座を実施する必要がある。	
活動方針：モデルツアーに沿ったストーリーを作り、地質だけでなく様々な分野に広げてストーリー作りを展開する。そこから全体テーマも考えていく。それらをガイド養成講座の中に盛り込み、ガイドがダイナミックな地球活動を語れるように養成していく。	
活動計画：モデルツアーに沿ったストーリー検討会の開催	

題目： ツーリズム	関連組織：産業観光部会、観光協会
<p>指摘内容：ジオツーリズムを通じた経済活動を活発化するためには、地域経済の活性化をプロデュースできる人材をジオパーク活動にもっと引き込んでもらいたい。</p>	
<p>活動方針：DMOの認定を受けた観光協会と連携したり、外部の人の協力も得つつ、地域の人が観光についても考えられる人を育成していく。</p> <p>駅から歩いていける範囲で「下仁田の地形と下仁田町の成り立ちについて」をテーマとしたツアーを検討する会を設け、世の中のニーズにあった旅行商品を観光協会と協力しながらコンテンツを作り、売り込む。</p> <p>外からお客さんを誘致し、ジオツアーの実績を作り、経済活動の足がかりとする。</p>	
<p>活動計画： 上記のストーリー検討会に産業観光部会をはじめ事業者にも加わってもらい「売れるツアー」を作る。ツアー名称の改訂。</p> <p>ツアー料金の見直し</p> <p>JGNや他の地域おこし実践者などを定期的に呼んで学習会を行なう。</p> <p>道の駅にある観光協会が利用しやすいような「道の駅」発着ツアーを開発する。</p>	

題目：施設・インフラ整備について	関連組織：協議会、産業観光部会
<p>指摘内容： ジオツーリズムの戦略を検討する上でも、計画的な施設・インフラ整備を行う必要があることから、総合案内看板、誘導看板、ジオサイトの解説看板の設置も含めた全体計画図と工程表の作成が必要である。</p> <p>また、上信電鉄内の掲示については、駅の近くで見られるジオサイトの紹介など、電車で来る観光客のニーズに合わせた工夫が必要である</p>	
<p>活動方針： 遊歩道、解説看板、誘導看板などの設置の優先度をガイドやツーリズムのニーズに応じて、工程表を作成する。</p> <p>上信電鉄の掲示の張替えを行なうほか、観光タクシーの利用に関する掲示や、駅周辺のサイトのPRを上信沿線上の駅でPR効果が期待できそうな場所をて検討してパンフレットの設置を行なう。</p> <p>また、観光協会とも連携し、公共交通機関を使ったツーリズムを実践する。</p>	
<p>活動計画：公共交通で巡るジオパークのパンフレットをインターネットなどで宣伝。</p>	

題目：地質資源以外の地域資源の活用について	関連組織：学術部会
<p>指摘内容：各種自然遺産、文化遺産など、地域資源の再調査を行い、ジオパークとしてどのように活用が可能か再度検討する必要がある。特に植物を中心とした生物多様性や考古学資料など、地質地形との関連を明確にした上で積極的にジオパークに活用することが重要である。</p>	
<p>活動方針：カルテを作成し、サイトの重要度を検討する。また、既存の文化財についても文献調査などを行ない、大地との関連を探る。</p> <p>新しい地域資源の発掘については、地域の人から伝承などを聞く座談会を開催し、座談会で得た情報を部会で検証し、活用していく。</p>	
<p>活動計画：カルテの完成</p> <p>各地域で座談会を行なう</p> <p>文化遺産の文献調査を行なう。</p>	

### 3. 次回再審査（2021年11月）までに取り組むこと

題目：地質遺産の地球科学的意義の整理について	関連組織：学術部会
<p>指摘内容：下仁田の人々にとって「跡倉クリッペ」がとても大切なもので重要な存在であるとしても、その意味をきちんと語らずに「跡倉クリッペ」を強調するだけでは何が面白いのか、何が大切なのが他の人々には伝わらない。学術部会が中心となって、跡倉クリッペそのものに関する研究だけではなく日本列島の地質構造発達史に関する研究も整理した上で、跡倉クリッペと日本列島の成り立ちの関係について再度検討と整理を行う必要がある。そのためには学術部会が様々な分野の研究者との協力関係を築いて、広い視野でストーリーを構築する必要がある。以上のようなことを実現するために、学術奨励金制度および自然史館研究報告のより一層の活用を期待したい。</p>	
<p>活動計画：外部研究者の調査研究の窓口を作る</p> <p>学術奨励金制度の利用をPRする。</p> <p>部会員 各々が学会で情報を収集する。</p>	

題目：地質遺産の地球科学的意義の整理について	関連組織：協議会、ガイド部会、学術部会
指摘内容：下仁田にあるものを学ぶだけでは下仁田の地形・地質がどうやってできたかは語れないので、ガイドが他のジオパークに行ってみ聞を広げることも重要である。	
活動計画：現在、年間2回、日本ジオパーク下仁田応援団による他ジオパークでの研修を実施しているので協議会全体に広げていく。その際には下仁田のストーリーとの比較をしながら、ガイド時に知識を蓄えていく。	

題目：看板、リーフレットについて	関連組織：産業観光部会、学術部会
指摘内容：協議会で作成している看板、パンフレット、リーフレットについては分かり易い内容となっているが、その場所にあるものだけの説明となっており、日本列島の成り立ちやダイナミックな地球の活動との関係性がわからない。日本列島の成り立ち、あるいはプレートの沈み込み帯での出来事などに関連づけた内容とする必要がある。	
活動計画：学術部会を中心に、下仁田の地質現象が地球活動のどのような位置づけにあたるかを再検討し、それらをパンフレットに反映させていく。 また、一方で群馬の大地の生い立ちと当時の日本列島の形成についてまとめた普及書を作成し、ガイドや地域の人に下仁田の大地の生い立ちの意義を普及していく。	

題目：自然史館展示について	関連組織：協議会、自然史館
指摘内容：ジオパークの拠点として重要な役割を果たす下仁田町自然史館の展示は、子どもに興味を引く工夫がされているが、地質に関する展示は専門的なものが多く、ジオパークが想定していると思われる客層とはかなり異なるターゲットに向けたものとなっている。ジオパークにおける下仁田町自然史館の使い方を再度検討し、それに合わせた展示とする必要がある。	
活動計画：下仁田町自然史館は下仁田の大地の生い立ちを中心とした紹介した博物館であり、大地の上の人のより専門的な解説は「下仁田町歴史館」で行なうと位置づけている。しかしながら、岩石に特化した展示となっているので、動植物の展示についても検討していく。大地の生い立ちについても統一したストーリー展開をする。 県立自然史博物館の協力を仰ぎながら展示の魅せ方についても検討し、来場者に下仁田の自然の魅力の伝わる展示を目指すと同時に、ジオサイトへも誘導する展示を行なっていく。	

活動計画：展示室の拡充 ストーリーの整理、展示の統一性	
題目：歴史館展示について	関連組織：協議会、歴史館
指摘内容：下仁田の歴史に触れられ荒船風穴への導入としても重要な場所であるが、全体としていきなり細部から見せる展示・解説が多いので、時代背景との位置付けなど全体的な概要を踏まえての展示・解説とする必要がある。	
活動計画：お客さんの導線を意識しつつ、既存の展示物を並べ替え、はじめに展示の概略を説明してから、詳細な展示という順番になるように、再検討する。	

題目：教育活動について	関連組織：教育部会
指摘内容：ジオパークの地域資源を活用した学校教育プログラム(下仁田学習の手引き)に、今後 ESD や SDGs の観点を取り入れてもらいたい。風穴、鉾山遺構は、人が自然を活用してどうやって持続可能に経済活動を続けていくか、ということ学ぶよい教材になりうる。	
活動計画：持続可能な教育活動『下仁田学習』（郷土教育プログラム）を行なうために、教員研修を毎年行い、次世代を担うこどもたちの育成を学校と連携して取り組んでいく。 また、小学校では荒船風穴の見学、高校では風穴の解説ボランティアを現状でも行なっており、平成 30 年度は高校で中小坂鉄山を利用した地域学習も検討している。	

以上の計画については ESD や SDGs の概念を考慮し、4 年間活動を行なっていくものとする。

以上